

「ハレとケ」 通信

第7号

「非日常」と「日常」の、日本の風情のかたちを楽しむ暮らしをご提案する季刊誌です。

建設に携わることの幸せを、おすそわけ。

物語のある建築 (7)

「きな子」見習い警察犬の物語「ロケセット」

「ハレとケ」のある

遊びかた・暮らしかた (7)

【星に願いを込めて／七夕祭り】

二〇二一年のNHK大河ドラマに、

「江」姫たちの戦国」(上野樹里さん主演)決定！

この『江姫』

中津万象園とも縁があるって、知っていましたか？

中津万象園

「花の歳時記」(7) 美松(うつくしまつ)

かさねの色(7)「紫苑」

「ロケセット」

平成22年6月発行

表紙写真：7月になると、多度津町のブドウ園ではデラウェアが鈴なりに

「きな子 ～見習い警察犬の物語～ ロケセット製作」

香川県西部、県内一の面積を誇る三豊市。

私たち富士建設株式会社(本社)は、この三豊市の詫間町にある。

美しい自然を有する三豊市だが、中でも荘内半島は海と夕日で知られ、詫間町随一のロケーションである。

その荘内半島の美しい風景のなかで撮影された映画が、今夏一般公開される。

「きな子～見習い警察犬の物語～」という作品である。

香川県では知らない人はいない、実在する人気見習い警察犬の「きな子」。

彼女をモデルに昨年撮影されたこの映画の制作にあたり、

当社は、「ロケセット」建設を担当する縁に恵まれた。

初めて取り組んだ「ロケセット」製作。それにまつわる【物語】を、

施工の指揮を執った当社課長・坂田憲生の日誌に基づき、ご紹介したい。

平成21年8月20日。

当社の営業担当者より、施工を担当する坂田へ、ある案件の概算見積書と図面が渡された。それが、小林組「きな子が行く！」のロケセット設置工事である。

工期はわずかに、約二〇日間。その間に、番場警察犬訓練所の犬舎・小屋・事務所棟・母屋の建物を完成させなければならぬ。予算も厳しいが、それ以上に工期が厳しい。

また、何よりも、通常の建築物と、ロケセットとは建物の出来映え、品質に求め

るものが全く違う。つまり「建設業のプロ」としてこれまで経験を積んできた監督にとつて、相手の求める仕上がり、建設業界の「常識」には、どうしても相容れない

感覚的な差が生じてしまう。普通の工事とは商慣習の違いもある。

ロケ地は、荘内半島の「箱」地区。詫間町役場など町の中心部からは、車で二十分程かかる、長閑で風光明媚な場所だ。楽しみと共に不安な思いも抱えつつ、当社にとって初めてのロケセット建築が始まった。

↓ロケ地全景。



(※公開された題名は「きな子～見習い警察犬の物語～」であるが、工事中は仮題として「きな子が行く！」と付けられていた。その題名に馴染みがあるため、今回の『物語のある建築』では、仮題の「きな子が行く！」を使用した。)

*** 以下、坂田の日記より***

【平成21年8月20日】

詫間町本社にて 着工前打ち合わせ

共同テレビプロデューサー竹内氏、吉岡氏と、美術担当の瀬下氏、禪洲氏（カネサキ）が詫間町の当社へ来社。初めての顔合わせ、着工前の打合せを行う。共同テレビから渡された設計図は、方眼紙に描かれ、寸法表示は「尺」である。

現場では未だ尺による寸法が使われることも多いとはいえ、設計図はメートル法の表記がほとんど。それに慣れた人間にとつて、「尺」表記の設計図は新鮮だ。

工期も短い。早速段取りに入る。

【平成21年8月21日】

現地の草刈開始。

現地の草刈りを開始する。

【平成21年8月22日】

現地ロケーションの再確認

「きな子が行くー」の監督 小林氏と助監督が箱のロケ地へやってきた。再度ロケーションの確認を行う。

二人はラフなTシャツ姿で、犬舎予定地にある楠に登り始めた。大きく立派な楠だが、現在の配置図では、この木は伐採しなければならない。その旨を説明すると、「この木は残しましょう」と変更の指示が。犬舎の配置を変え、現場を進めることになった。

実はこの3本の楠は、地元・箱小学校の卒業生が記念に植樹をしたもの。子どもたちの思いのこもった楠を伐らずに映画に活かすことが出来て、嬉しい。

そしてまた、箱小学校側に鬱蒼と繁つていた草むらを「バツサリ刈つて下さい」との指示も。



↑ 楠の周りの草を刈る。

この草刈りを終わると瀬戸内海が一望出来るようになり、粟島・本島・広島等の島並みが素晴らしい。その景色の美しさにあらためて感動した。

【この日より現場はスタート。】

映画撮影のロケ開始まで約20日間程度、9月11日までに完成するスケジュールとなる。

【平成21年8月24日】

事務所棟の基礎工事を開始。

事務所棟の基礎工事を開始する。いよいよ本格的なスタートだ。

【平成21年8月27日】

事務所棟 木材の建て方開始。

今日より事務所棟の建て方を開始する。

（建て方とは建物の骨組みを組む工事）

今回は厳しい工期で段取りが「命」だ。

地元詫間の喜田建材の大工が6・7人と集まり、見ている内にあつという間に完成に向かっていく。結果、5日間程度で造作工事はほぼ完了した。

今回の大工の親方は、地元・香田（ロケ

地のある庄内半島の一地区。香川高専のある辺り（の山下さん。この山下さんの指揮により、効率よく仕事を終えた。彼は一級建築士の資格も持っているというが、素晴らしい良い大工さんだった。

【平成21年8月29日】

犬舎棟 木材の建て方開始。

基礎工事もまだ出来ない内から、地元の喜田木材からプレカット材（現場で木材に刻みを入れるのではなく、工場で機械により刻みを入れた材木のこと。）の搬入がある。「大工が遊ばないように」（材料がないせいで大工が仕事にかかることが出来ず、無駄なタイムラグが発生すること）との心配りだ。

このあとも毎日のように、時には1日2回も喜田社長自らがトラックを運転し、現場まで木材を運搬してくれた。本当にありがたい。

【平成21年8月29日】

母屋 鉄骨工事を開始。

母屋の鉄骨工事を開始する。たかぎ鉄工が担当し、これもみるみるうちに一日で完成した。



【8月末より美術の禪洲氏が現場に常駐となる。】

8月末より常駐し、指示を細かく出してくれるようになった美術の禪洲さん。繰り返し言われたのが、「綺麗すぎる工事をしないでください。」という言葉だ。

「綺麗すぎる工事はいいらない」。…つまり、通常建物をつくるときに心がける美しい出来映え、精確な品質は不要、むしろ迷惑だという意味だ。なぜなら、今回の建物は「映画のロケセット」。求められているのは新品のピカピカした建物ではなく、長い年月による風化・劣化を感じさせる建物なのだ。

とはいえ、当社は「建設業者」。そういった“綺麗ではない”出来映えにする…いやむしろ「そんな出来映えで良い」と自体が、なかなか馴染みにくい。長い年月現場の監督として携わってきたなかでも、初めての体験だ。

戸惑いながらも、その後の木工事も喜田建材の大工を中心に、どんどん順序よく進み、結果的にはゆとりをもつて建築工事を終了した。

【平成21年9月7日】
完成した建物のデコレーション開始。

建物が完成したことを受けて、いよいよデコレーションが始まる。

デコレーションと聞けば美しく飾るイメージがあるが、今回は反対。「いかにそれらしく汚すか」がデコレーションである。

まず、塗装から開始となる。

塗装業者の岡田塗装（同じく地元託問出身）が綺麗に仕上げたペンキ塗装を、東京からやってきた職人さんが、翌日から早速汚していく。

普通なら綺麗に仕上げるのが建築の仕事だが、このペンキ職人は“汚す”のが仕事。白木の柱や梁の木材にも、薄いグレイ色の塗料を何度も何度も吹き付け、経年によ

り劣化した風合いを出していく。その様子はまさに“プロ”の仕事である。

犬舎の屋根も、清和板金工業が綺麗に仕上げたものを、錆びた感じを出す為に“錆色”をフツフツとした質感となるように吹き付けていく。外側の錆びた感じはやや大げさに、内側は抑え気味に。

まさに芸術とも言える職人技だが、「せっかく綺麗に仕上げたものを…」という複雑な思いも、協力業者の胸の中にはあつたかもしれない。なんといつても、こんなことは初めての経験！



錆のデコレーションの施された 犬舎

犬舎の外側に貼られた杉板にも、美術スタッフの方々の細かな苦勞の跡がある。近距離で撮影できるよう、外壁が丸こと取り外せるようになった構造の他、杉板をまるで犬たちが爪や歯で引っ掻いたかのように見えるよう、ノコギリの刃先を立てて、ときには人間の手でガリガリと加工していくのだ。

柱、開口部の木枠も、斧で丸みをとったり、傷を付けたりと…と細工は限らない。

「そこまで細かく映像で分かるのですか？」と美術の禪洲さんに尋ねると、「当然」と言わんばかりな答え。

臨場感を出すためのプロのこだわりには脱帽である。

【平成21年9月11日 完成】

二〇日程度の工期で複数の建物…と聞き、突貫工事を覚悟したが、現実には協力業者を始め皆さまの協力でスムーズに進み、また天候にも恵まれ、ロケのクランクインに楽々間に合った。

また、この期間中、毎日、共同テレビの担当者の方より飲み物とアイスクリームの差入をいただいた。

コンビニなどないロケ地周辺、暑い最

中の工事でのこの気つかいは、本当にありがたかった。改めて心より御礼を申し上げたい。

最後に、工事の中で知った、「映画撮影の裏話で面白かったこと」をご紹介します。

■子犬の色は……？

ロケ開始後、ドッグトレーナーの宮忠臣さんを紹介された。犬の登場する映画にはほとんど係わっている、一流のドッグトレーナーさんである。撮影の合間に子犬に何かを塗っているの聞いてみると……。「きな子」の毛色に合わせるために、きな粉色の顔料を刷毛で塗っている」とのこと。なるほど！

■美術スタッフさんの話

東北出身の方が多いという美術スタッフの皆さん。ロケのための大道具・小道具など備品の多さには驚いた。電気製品から梅干し・梅酒まで、日常の生活感を出すためのありとあらゆるものが揃っていた。外での撮影も、春には菜の花、夏には向日葵と季節の花(造花)を畑に植え、家庭菜園にもスタッフで野菜を植える。その徹底したこだわり、また、それを楽しむもうとする姿勢はすばらしかった。

その後、レオマでのロケセット設置、財田町、丸亀市での撮影のための仮設トイレなどの手配も行い、それぞれ無事にクランクイン。

……として初めての体験、「ロケセット」建設工事は終了した。



*****以上 坂田の日記より*****

この、当社にとつて初めての「ロケセット製作」という工事。

陣頭指揮を執った坂田は、「ロケセット建設現場に最前線で係わり、人生初の

様々な体験ができたことは、本当にありがたかったです。【きな子が行く】が盛大にヒットすることを期待すると共に、この映画が、香川県、また三豊市の観光発展につながってほしいと心から思っています。」と語る。

ロケセットが完成した時には、当社の女子社員も楽しみにロケ地を見学に行った。やはり今回の工事は、心どこかがワクワクするような、そんな建築だったのだ。

今、三豊市では「きな子パーク」として、箱のロケ地を公園として保存しよう、という動きがある。

初めての経験に戸惑いつつ、まるで学園祭のように一気に仕上げたこのロケセット。ここにはロケに係わった役者やスタッフの方々のみならず、協力業者、炊き出しなどで活躍した地元の人、三豊市商工会の皆さまなど、関係者の思いがいっぱいに詰まっている。

高齢化の進む詫間町、とりわけ荘内半島ではあるけれど、香川県民の皆に愛され心を和ませた「きな子」に因んで、これから末長く子どもたちの声の響く、またおじいちゃん、おばあちゃんが里帰りした孫を連れてひとときを過ごせるようなそんな場所としてこのロケ地が親しまれ

ていつてほしい……と心から思う。

今回協力いただいた業者の皆さま

- ◆基礎工事 (株)春瀬建設工業
- ◆木工事 (株)喜田建材 喜田木材(株)
- ◆屋根工事 (株)日新建工(有)清和板金工業
- ◆鉄骨工事 たかぎ鉄工(有)
- ◆金属工事 (株)キービック
- ◆塗装工事 岡田塗装
- ◆内装工事 近石内装
- ◆その他 真鍋量具整飾
- (株)レンタルのツケン
- (株)三英
- (株)山地緑化センター
- (株)四電工

※ご協力ありがとうございました。



【ロケ地案内図】

作成/森 仁美

「ハレとケ」のある 遊びかた・暮らしかた
この季節を暮らす。(7)
【星に願いを込めて／七夕祭り】

毎年七月に入る頃、商店街やスーパーなどにも飾られる色とりどりの七夕飾り。笹竹に折紙で作った飾りや短冊を吊るし、願いが叶うようにとお祈りしますが、一体いつ頃からどのような形で行われてきたのでしょうか？

七夕とは、五節句の一つで、旧暦七月七日の夜に行う星祭りのことをいいます。源流は、日本古来の「棚機つ女(たなばたつめ)」の伝承に、奈良時代に中国から伝わった「星祭伝説」(日本でも有名な、牽牛星(けんぎゅうせい)・織女星(しよくじよせい)の二つの星が天の川を渡って、一年に一度の逢瀬を楽しむという伝説)と「乞巧奠(きつこうでん)」の行事が結びついて、できあがったものだと考えられています。

◆棚機つ女(たなばたつめ)の伝承◆

古来より日本では、機で布を織り、税として納めたり、先祖の霊にささげたりしていました。棚の構えのある機を棚機(たなばた)といい、その機で布を織る女性のことを棚機つ女と呼んでいました。

旧暦の七月七日頃は、稲の開花期にあたり、水害などが心配される時期でもあったことから、水辺の機屋で、棚機つ女たちが先祖にささげる御衣を織り上げ、稲の収穫の無事を祈ったそうです。

◆乞巧奠(きつこうでん)◆

乞巧奠とは、『巧みを乞う奠(まつり)』で、奈良時代に宮廷や貴族の間に取り入れられ、盛んに催されました。当初は、特に女子の裁縫の上達を願い、織女星を祭っていました。が、次第に機織りだけでなく、日常の針仕事、歌舞や音楽

などの芸事、そして詩歌や文字の上達を願う行事へと発展していききました。

江戸時代になると幕府の式日に定められ、武家にも定着しはじめるようになります。この時代、寺子屋教育の影響によって、手習い事の上達を願う人々が増え、誰もが星に上達を願うようになったのです。さらにはお盆や豊作祈願などとも結びつき、各地様々な風土に合わせた七夕が行われるようになったようです。

現在の七夕は夏の行事ですが、旧暦の七月七日はほとんど立秋以降となるため、古来の七夕は秋の季語でした。現在使われている新暦の七月七日は、多くの地域で梅雨の最中なので、雨の日が多く、七夕にはつきものの天の川が見えないということも。

せっかく七夕祭りを行うのであれば、晴れた日に行いたいですね。そんな方には旧暦の七月七日に行うことをお勧めします。くわえて、旧暦の七夕の日は毎年必ず上弦の月となることから、月明かりの影響も受けにくいので、天の川が見えやすいという条件もそろっています。七夕祭りを楽しんだ後、町の明かりから少し離れたできるだけ標高の高い所で、天の川に願いを込めてみてはいかがでしょうか？

ちなみに今年の旧暦七月七日は、新暦八月十六日にあたります。

【七夕飾りのいろいろ】

小さい頃、折り紙を折ったり切ったりと、七夕飾りを夢中で作っていた記憶はありませんか？笹竹に吊るす短冊には願い事を書きますが、その他の飾りには、どのような意味があるのでしょうか。飾りにはそれぞれ深い意味があるようです。

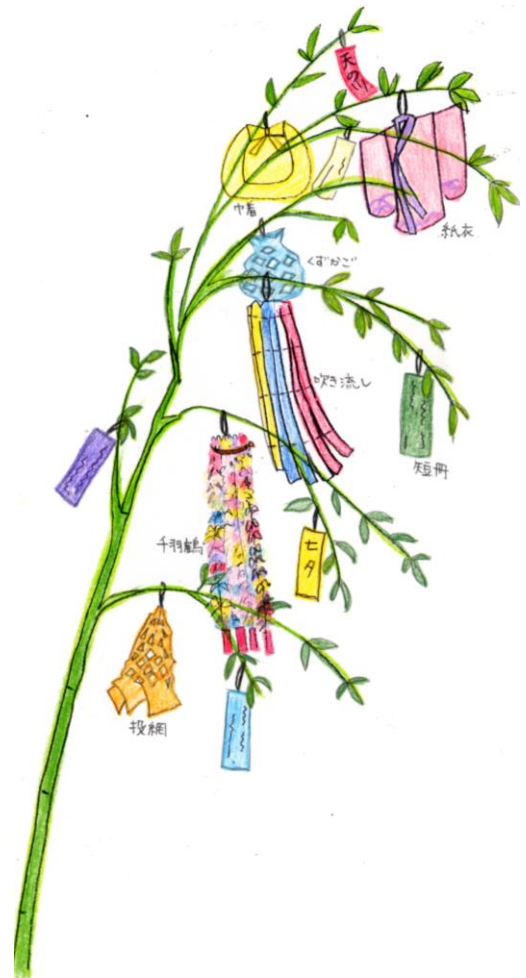
◆七夕飾り◆

短冊	詩歌や「七夕」「天の川」などと書いて、歌や書の上達を願う。短冊の色(五色)は中国の五行説に由来。
紙衣	裁縫が上達し、着るものに困らなくなる。また、病や災いを人形に移すという意味もあり、笹竹の一番先端に吊るす習わしがある。
吹き流し	昔の織り糸を垂らした形を表現。機織や技芸の上達を願った。五色の織り糸が原点である。
巾着	富貴を願いながら、節約、貯蓄の心を養うことを願って飾る。折り紙で折るほか、本物の財布を下げることもある。
網飾り・投網	豊年豊作大漁の願いを込めて飾る。今年の幸運を寄せ集めるといいう意味も含まれる。
千羽鶴	延命長寿の願いが込められている。かつては一家の最年長者の年の数だけ折って吊るしていた。
くずかこ	七夕飾りを作った紙くずを、くずかこの飾りの中に入れてしまおうというものは、くずかこに込められた意味、願いがそのまま込められているように感じます。

七夕飾りにはたくさん願いが込められていたようすが、飾りを作った紙くずを、くずかこの飾りの中に入れてしまおうというものは、くずかこに込められた意味、願いがそのまま込められているように感じます。

折り紙などの飾りは、つければつけるほど縁起がいいとされていますので、笹の多い竹を選び、ぜひたくさん飾ってみてください。

(文・イラスト／土岐倫子)

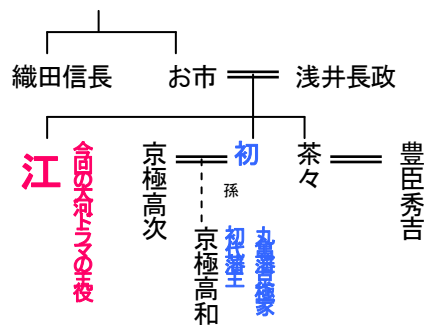


歴史に名高い三姉妹　～茶々・お初・お江～

茶々、お初、お江。彼女たちは、父・浅井長政、母・お市の方（織田信長の妹）の間に生まれた三姉妹です。

茶々は豊臣秀吉の側室（淀君）となり、お初は京極高次へ嫁ぎ、そしてドラマの主人公・お江は、佐治一成、羽柴秀勝（秀吉の甥）、徳川秀忠（徳川家康の子、二代目将軍）と三度の結婚をします。

それぞれ歴史を動かす結婚をした三姉妹。子どもに恵まれなかったお初は、お江の子を養女にもらいますが、やがて茶々とお江は天下の座をめぐる敵対する立場に…。



『女運の良い』、京極高次候？

お江の姉、お初嫁いだ相手が、「京極高次」。

一説によると大変な美男子で、姉の茶々も当初憧れていた相手だといわれています。

もともと京極家は近江源氏佐々木氏の流れを汲む名家ですが、次第に衰微。

味方し従った相手（織田信長→明智光秀→柴田勝家）が次々に滅ぼされるなど、鬱々とした時代も経ます。しかし、高次の妹・竜子の美貌が秀吉の目に留まり、側室（松の丸殿）になったあとは、一万石を与えられ、お初を嫁に迎えます。（女性（妹）の威光で命拾い…ということ）『蜚大名』と揶揄されたことも

ところが、今度は秀吉の亡き後、家康・三成の戦いに巻き込まれ…。関ヶ原の合戦間近に落城し、一度は剃髪して高野山へ入った高次ですが、家康により八万五千石を与えられ、大名として復活しました。それもまた、女性（妻）のおかげ？とも…。

二〇一一年のNHK大河ドラマに、

「江　　姫たちの戦国」が決定！

この『江姫』、ちよつとだけ？中津万象園とも縁があるって、知っていましたか？

お初は、『世渡り上手』？

お初は父・浅井長政、お市の再婚先の柴田勝家、大津時代の夫・京極高次、秀吉亡き後姉・淀君の守る大阪城…と、四度の落城を経験しています。

また、姉は豊臣秀吉に、妹は徳川家康の子に嫁いだことから、両方の立場に引き裂かれる…といった苦悩の日々も送ったことでしょう。

ですが、その狭間で何度も危機に陥った自身の嫁ぎ先の京極家は、無事に後世まで生き延びており、その存続の功労者はお初ではなかったか？とも言われています。「世渡り上手」だったのかもしれない。

丸亀藩、中津万象園とはどんな関係なの？

丸亀京極藩は、京極高次侯が一六五八年に丸亀へ転封されたことが始まりですが、その高次の祖母が、お初。つまり、今回の大河ドラマの主人公、江の姉です。

さて、当中津万象園（中洲のお茶所）の建築、築庭を始めた高次侯は、2代目の藩主。父の死後、8歳で家督を継ぎ、非常に絵画に堪能で、その才能は天才的だったといわれている人物です。京極家と仁清窯との関わりが深いことはよく知られていますが、この組み合わせが数々の傑作を生みきっかけになったのは、いわば彼の「絵心」。

そんな彼の美的感覚の集大成であったらう当園を、京極家の歴史に思いを馳せつつ歩いてみませんか？

「花の歳時記（7）美松」

うつくしまつ

万象園の展望台でもある朱塗りの橋「邀月橋」上から西方を眺めると、周囲を老松の自然林に囲まれた池泉（八景池）と、そこに浮かぶ雁の島を望むことが出来ます。そしてその島上には、数本の幹が地際から斜めに伸び出て、傘型の樹形をした盆栽のように美しい樹形をした「美松」が生い茂っています。この周辺の自然林と島上の「美松」との見事な対比と調和には、絶賛の言葉もありません。

「美松」です。末長く中津万象園の顔として活躍を願いたいものです。

なお、左の漢詩（和訳）は丸亀京極藩六代藩主京極高朗侯直筆の書（市立資料館保存）の写しで、千年の樹とは松樹を指しています。蓬萊庭園を賛美したすばらしい詩で、若しや中津別館（万象園）の景を詠ったものかも知れません。

鶴は千年の樹に舞い

亀は萬歳の池に遊ぶ

源 高朗

この「美松」は赤松の一種で、藩祖の地近江（滋賀県）より献上されたといわれています。現にこの「美松」の自生地は、滋賀県甲賀郡甲西町的美松山に限定されているようで、この地区の「美松」は大正十五年国の天然記念物に指定されています。いずれにしても遠路はるばる藩祖の中津別館へ興入れした由緒ある

＜中津万象園・丸亀美術館へのアクセス＞
瀬戸中央道路 坂出北ICより約 8.5km／約 15 分
坂出ICより約 14km／約 20 分
高速道路善通寺ICより約 5km 約 10 分



雁の島より美松を前景として邀月橋方面を望む

【長岡 公 氏】

昭和 2 年 10 月 香川県丸亀市津森町に生まれる。
昭和 26 年 3 月 鹿児島大学鹿児島農林専門学校農学科卒業
昭和 26 年 4 月以降 香川県公立高等学校教員として
主基高等学校・飯山高等学校・笠田高等学校
・農業経営高等学校教諭、高松南高等学校
・飯山高等学校教頭
昭和 63 年 3 月 定年退職 香川西高等学校教頭
現 在 （財）中津万象園保勝会 理事
※主な著書に「讃岐の名園紀行」（栗林 玉藻編／中・西讃編）がある。

古来より季節を感じさせた「色」を知る。

かさねの色（7）

「紫苑」



表：紫／裏：蘇芳 着用時期は秋。
キク科の植物である紫苑の花をモチーフにした色目。
平安時代には、紫苑の花と共に、その色も愛された。

日本人の季節を感じる心、美しいと感じる色彩感覚。そういったものの結晶とも言える「重色目（かさねいろめ）」は、平安時代に生まれ、季節の移り変わりを表現する配色として併せ仕立ての着物などに用いられました。現代でもしつらえなどにいかして、平安の風雅を味わってみては…。

【編集後記】

セルバンテスの『ドン・キホーテ』を読み返しています。『自分は、世の中の不正を正す遍歴の騎士だ！』と思いつき、一途に突き進むドン・キホーテ。あちこちでトラブルを巻き起こしますが、例えひどい目に遭ったとしても、「これはワシを邪魔する魔法使いの仕業なのじゃ。」と、悪魔のせいにして、めげずに何度でも向かっていきます。いわば「理想」を追い求めている彼には、無限にパワーがあるのです。

ところが、終章近く、現実には自分の力の及ばないことを認めた途端 衰え始め、ついには死に至ります。他人から見れば夢のまた夢、妄想のような理想でも、掲げて追っている本人にとっては、かけがえのないもの。その理想、夢をなくし、「所詮、現実はそのためのだから」と諦めた瞬間から、何かが変わっていくのかもしれない。

じゃあ、私は、諦める前に「なぜ？」とどうすれば？」を積み重ねて、一步一步進んでみよう…と思います。なんといつても、「問いを見つけれられるものが答えを見つけれられる（リサ・ランドール博士）ですから！

*****御意見、御感想をお聞かせ下さい*****



富士建設株式会社

本社：〒769-1101
三豊市詫間町詫間 300 番地 1
TEL0875-83-2588(0120-832589)
FAX0875-83-5864
http://www.fujikensetsu.jp
mail y-manabe@fujikensetsu.jp（真鍋有紀子）

建設業許可：香川県知事許可（特 18）第 189 号
／一級建築士事務所：香川県知事登録 第 416 号
／宅地建物取引業免許：香川県知事登録（10）第 1997 号

【発行者紹介】富士建設株式会社は、現存する五重塔55基のうち2基を建立し、「建築は文化なり」を理念に掲げて、官公庁建物・各種施設等大型建築物をはじめ、数寄屋風住宅、デザイン住宅、リフォームまで幅広く施工している。また、県下において 1300 区画超の宅地開発・分譲の実績を持ち、「街づくり」に対する貢献には定評がある。なお、丸亀市指定名勝である「中津万象園」の修復維持保全活動も行っている。

- 営業所：高松営業所・丸亀本店・観音寺営業所
- 中津万象園・丸亀美術館／丸亀プラザホテル／味処 懐風亭